

**令和7年度 江戸川区立篠崎中学校学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）1**

学校教育目標	・よく学び、深く考える生徒 ・すすんで体を鍛える生徒 ・社会に貢献する生徒	・思いやりと規範意識のある生徒 ・社会に貢献する生徒	自指す生徒像 自指す教師像	・主体的に考え、行動できる生徒 ・生徒のやる気に火を付けられる教師
前年度までの本校の現状	成果	①読書指導等指導につけては、かなりの成果が上がっている。②土佐芸芸等に、より主体的な生徒会活動については教員から好評である。③学びのユーバーサルデザインを取り入れた授業改善については増補版を完成させた。④CSの開設については準備が整っている。⑤働き方改革については、ゆっくりではあるが着実に成果が出てきている。⑥学校財産については、かなりの成果が上がっている。⑦昨年度開設したチャレンジクラスについては、概ね良好な状況で	課題	①不登校については、全く成果が表れていない。②自己肯定感を高める取組については今後大きな仕掛けが必要である。③教員の特別支援学級での出前授業については、再度丁寧に推進する必要がある。④学力向上については焦点を絞っての教員への意識付けが必要である。⑤国際交流については、交流先を見付けることが課題になっている。⑥フィットネスエリアの活用については大きな課題である。

重点	取組項目評価の視点	具体的な取組	自己（学校）評価		「中間」学校関係者評価(A～D)	「年度末」自己（学校）評価 (A～D)	「年度末」学校関係者評価 (A～D)	次年度に向けて		
			数値目標 (赤字が変更事項)	達成度 10月 2月	10月現状・追加取組 (赤字が追加取組)			評価	コメント	
全体共通（通常学級）	(1)篠崎中学校「学力向上推進計画」に基づいた学力向上	①EDOスク、EDO学舎、EDO塾など、家庭と連携した学習習慣の定着	国語力問題意識、数学、英語の平均正答率が、都の平均値以上	×	△	本年度から定期更新直前コースと添削コースで実施。EDO学舎も随分で溢れています。(計画が未確定)	B	補習教室等の参加率は出ているが、学力向上になっているかは不明。	・学力向上は難しいと思う。 ・生徒の意識や態度を明確にすることが大切	新たに学力向上を強く感じる。 ・学習習慣についても継続するが事業としては廃止
	(2)学習指導要領に対応した教員の指導力向上	①反転学習を導入した課題解決型学習に脚色する授業研究を計画的に実施	定期評定で54.0%都60.6%都58.0%英語本校55.0%都56.6%園52.5%英語本校51.0%都52.0%園45.6%	—	○	全教員が実施し、事例集も完成させることができた。	B	中修及び研究会をを通して、教職員の授業も高まっています。効率的で実施するためにはどうしたらいいかといふ課題も残った。	・教員の指導力を向上しているように感じる。 ・課題解決型については教育活動全体を通して実施。反対に続行するが事業としては廃止。	廻り解説型については教育活動全体を通して実施。反対に続行するが事業としては廃止。
	(2)調べる学習コンクールへの出品を軸にした、競技科の充実	②調査した結果をもとにした学習コンクールへの出品を軸にした、競技科の充実	園芸部は使用した結果をもとにした学習コンクール、区内競争者10名以上(内、区内新規者5名)	—	△	全学年531名が応募し、区内競争7名が入賞	B	調べる学習コンクールへの出品は出来ていているが今後は質の向上が重要。	・生徒の意欲は出しているが、今後は質の向上が重要。	教育活動全体を見直し、作品の質の向上を図る。
	(3)豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	①本校の課題を意識した保健体育科の授業における補助運動の充実	全学年が都の平均以上	○	○	種目に応じて体育で実施している。	B	単元ごとに今以上の工夫改善を図つていただき。	・補助運動の実施によって多くの効果が得られている。 ・体力向上で持続久能の距離。フィットネスエリアの器具の使い方を意識してはいるが、まだまだ拡大充実を図る必要がある	分析を深めて、更なる向上を目指して継続
	(4)自己と他者を大切にし、多様性を認め合える人権尊重意識の涵養	①自己と他者を大切にし、多様性を認め合える人権尊重意識の涵養	R6 いのちの認知件数 4件 重大事態 2件	○	○	本年度の保護者等を文えた授業は評判が良かった。	A	本年度の3年生の取組を発展させたい。	・保護者等の参加を今まで以上に増やす継続する。	拡充
	(5)生徒理解に基づいた支援の充実	②職員の人権尊重教育に係わる研修の充実（フィールドワーク等）	hyper-QU 2回目ににおいて、学級不満足度評定が全体の10%以下R6 1年7% 2年17% 3年10%	—	○	フィールドワークでなく、WISCの実施研究を行い、2月に山谷掘りの研修を実施	B	3学期に山谷掘り視察が本当にできれば、是非とも実施したい。	フィールドワークを重視し継続	継続
	(6)「未来を担う子供たちの自立に向けて」に準じた不登校支援の充実	①生徒会議を設立し、より主体的な生徒会活動の活性化	不登校もしくは長期間欠席者のうち、外見部会場開催につながっていない生徒10人→2人	△	○	年間開催回数及び実績、一月用ハンドブック、女子委員会監修機会を開催	A	各委員専門委員会の主体的に活発な議論が行われ適切な活動ができた。	PTAとの連携を強化し、元気な生徒の社会的な活動を奨励し、周囲の中学生の時より繋げられると想います。みんなで手を貸す意識が高いと思います。	継続
	(7)共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進	②不登校・不登校傾向の生徒の部活動や地元活動への参加を促進	①日常的な交流及び共同学習の機会を設定し、交流及び共同学習の要ある充実	○	○	1月現在全部で14名の生徒が活用している。	B	派遣へ向けての準備が進捗されてください。	・PTAとの連携を強化し、元気な生徒の社会的な活動を奨励し、周囲の中学生の時より繋げられると想います。みんなで手を貸す意識が高いと思います。	継続
	(8)「コミュニケーション・スクール運営マニュアル」に基づいたCSモデル校の運営充実	③「学びのユーバーサルデザイン」を取り入れた授業の工夫改善	②地域の方々を活動に招いた「篠崎中学校サマークリーク」と、地域学校協働部を活性化させた多様な活動の推進	△	○	外部指導員51名。連携団体の変更	A	生徒一人ひとりを大切にする姿勢が取組みが見られる	・ユニバーサルデザイン等の研究は進んでいると思うが、実践は今一步を感じます。	継続
	(9)学校情報の積極的な配信	④「篠崎中学校「働き方改革推進計画」」に基づいた働き方改革の進歩管理	①地域の方々を活動に招いた「篠崎中学校サマークリーク」と、地域学校協働部を活性化させた多様な活動の推進	○	△	昨年度8名が15名に伸びてきた。	B	計画通りに進めることができない部分があった。	・多様性の理解、尊厳の実感が見られる ・先生とのみならず生徒1人1人にも交流を通して互いの存在と尊重、様々な違いを受容する気持ちが醸成できていると思います。	継続
共生社会	(10)教員の生徒と向き合う時間の確保	⑤「学びのユーバーサルデザイン」を取り入れた授業の工夫改善	②1人1ボランティア運動の推進（地域祭り、夏ボラ等）	—	×	増補版の作成には至っていない	B	個に応じた指導を全教員が取り組めるようになってきている。	・もう少し丁寧に計画を練り実施を変化していく。 ・それぞれの教員が継続していくが事業としては廃止。	廃止
	(11)より良い学校設備の整備・充実	⑥「篠崎中学校「働き方改革推進計画」」に基づいた働き方改革の進歩管理	③「篠崎中学校「働き方改革推進計画」」に基づいた働き方改革の進歩管理	○	○	月4時間の更新は行っているが、それとどまっているのが現状	A	部活動の地域への移行を篠崎中でできる範囲で実施していただき。	・地域の力と共に学校の中でも活動していきたい。	拡充
	(12)食育の推進	④「篠崎中学校「働き方改革推進計画」」に基づいた働き方改革の進歩管理	④「篠崎中学校「働き方改革推進計画」」に基づいた働き方改革の進歩管理	—	○	R7は、資料室及び図書準備室を整理できた。	B	今後とも、ボランティアについては定期的に更新しているが、今まで以上の更新には至らなかった。	・私のボランティア手帳をまとめて活用する市、継続して実施していく。 ・篠崎中学校の生徒がいる。	拡充
	(13)より良い学校設備の整備・充実	⑤「篠崎中学校「働き方改革推進計画」」に基づいた働き方改革の進歩管理	⑤「篠崎中学校「働き方改革推進計画」」に基づいた働き方改革の進歩管理	—	○	本年度も実施ができた。	C	・教員の働き方課題	・(1)(X)はよくやっていると思います。(10)についても管理者と教員で協力してよりよい環境にしてもらいたい。 ・働き方改革は教員の支援がもっとあるといいと思う。特にインフラ整備AI活用に期待したい。 ・自習室の利用を希望している生徒がどのくらいの気になりました。	継続
その他	(14)教員の生徒と向き合う時間の確保	⑥「篠崎中学校「働き方改革推進計画」」に基づいた働き方改革の進歩管理	⑥「篠崎中学校「働き方改革推進計画」」に基づいた働き方改革の進歩管理	○	○		A	次年度までに今年度分はしっかりとやるべきです。	・本年度で一定程度完了したが、デットスペースは再検討する。 ・自習室の利用を希望している生徒がどのくらいの気になりました。	継続
	(15)より良い学校設備の整備・充実	⑦「篠崎中学校「働き方改革推進計画」」に基づいた働き方改革の進歩管理	⑦「篠崎中学校「働き方改革推進計画」」に基づいた働き方改革の進歩管理	—	○		A	今年度も継続できることで、まずは良いと思う。	新たに取り組みへと変更する	廃止

重点	取組項目評価の視点	具体的な取組	自己(学校)評価(A~D)			「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けて			
			数値目標 (赤字が変更事項)		達成度 10月 2月	10月現状・追加取組 (赤字が追加取組)		評価	コメント	評価	コメント		
			評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	校長所見(案)		
特別支援学級(8組)	学力向上	(1)篠崎中学校「学力向上推進計画」に基づいた学力向上	①学年の枠を超えた3クラス2~3段階の習熟度別学習の実施	○	○	レディネステストでのクラス分けを実施。	A	出来ている。		・来年度、英語に取り組む意欲に萌芽してます。 ・生徒の成長に対するかけがえのないものとの出会いに充満感を促す指導の面が嬉しいと思いました。 ・学習に慣れてて取組みが進んでいると思います。	習熟度別学習は継続するが、事業としては廃止。新たな学力向上策を考える。	廃止	
	向体上力	(2)学習指導要領に対応した教員の指導力向上	②各教科等の目的や自立活動、作業学習等の目標を意識した適正な教育課程の編成	○	○	関連資料の見直しを図り、指導の重點化が図れた。	A	出来ている。		・生徒は、出店会で様々な出店者と接する中で、生徒同士のコミュニケーションの発展につながりました。 ・生徒は、出店会は事業につながる特徴的な機会なので期待しています。 ・今後は探究的な学習を重視する。	実践してみたいので取組みが進んでいます。 今後は探究的な学習を重視する。	廃止	
	育健成全	(3)豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	③朝のトレーニング週間を設定して体力の向上	○	1回は概ね1週間、学期に1回程度	△	△	生徒及び教員の負担増にならない。	B	回数、実施方法は今後に向け検討していく。	・朝はいい方法を考えるは又は別の方法を考える。 ・生後のモチベーション向上が課題だと思います。	形を変えての実施を検討し、本事業としては廃止。	廃止
	共生社会	(5)生徒理解に基づいた支援の充実	④野菜や雑巾販売、喫茶店などPTAと連携した作業学習の充実	OPTAと連携した作業学習を年間3回以上実施	△	△	土曜授業の回数変更に伴い、3回実施できていません。	B	障フェスの一回のみの実施となってしまった。今後の計画にもない。	・ボランティア参加とかからな会員会で活動してほしい。 ・喫茶店出店は事業につながる特徴的な機会なので期待しています。 ・大変だと思いますが、継続していただきたいです。	回数を増やすことを視野に入れ継続。	継続	
特別支援学級(8組)	共生社会	(7)共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進	⑤日常的な交流及び共同学習の機会を設定して、交流及び共同学習の要なる充実	○通常学級生徒の交流給食の受け入れ	×	×	交流及び共同学習は進んでいるが、日常的な交流は不十分である。	B	3学期に3年生と交流給食を実施した。	・中間評価のコメントと同じです どうして通常組になじめない生徒には長期的な支援が必要だと思います。	個に応じてそれぞれの交流の場を増やしていく。	継続	
			⑥全ての通常学級担当教員による年間1回以上の出前授業の受け入れ体制の構築	○出前授業の年間実施計画の作成	△	△	出前授業の実施率は上がっているが、100%にはなっていない。併せて計画を作るのが難しい。	B	教育課程の編成上、計画的に進めることが難しかった。	次年度は全教員が授業を実施することを強化し、実施。	継続		

チャレンジクラス(9組)	学力向上	(1)チャレンジクラス運営マニュアルに基づいた学力向上	①学年の枠を超えた3クラス6段階の習熟度別自由選択学習の研究	○	○	問題なく、実施は出来ているが、学力の数値目標を掲げるのが困難。	A	実施できている。		・評価は特別なので研究の余地はあるが出席がよければ効果も上がっていると思います。	人数が増えても維持できるような体制の構築	継続
	向体上力	(2)学習指導要領に対応した教員の指導力向上	②音楽科、美術科、技術科、家庭科における、通学時に弾力性をもたらす指導の実施	○	○	概ね出来ており、形が出来上がってきました。	A	実施できている。		・中間評価で一度同じた際には授業も温かく安定した様子に感じられました。	指導体制の維持、継続	継続
		(3)豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	③定期検査を廃止し、評定によらない評価の実施、個の学習進度に応じた実力テストを実施	△	△	実力テストは出来ておらず、個別に把握を行っている。	B	評定によらない評価は実施しているが、実力テストはできていない。	・メンバーの変動や学年進度のずれなど、通常学級と異なる工夫が必要なことがあります。 ・見学したときは、いい雰囲気で充実した学習態度でした。	評定は行わないが、学力調査の実施を推奨する。	継続	
		(5)生徒理解に基づいた支援の充実	④理科・社会科における、自己の課題の解決に向けた調べる学習と定期的な発表会を実施	○	○	課題解決型学習に図れるようになってきた。	B	調べる学習や発表会の場を設ける授業もあったが、改善の余地がある。	・努力されている事に感謝します	工夫改善を行い継続	継続	
チャレンジクラス(9組)	健全育成	(6)不登校支援の充実	①標準服や体育着の着用を求めるなど、生徒の実態に応じた「きまり」の抜本的な見直し	○	○	「きまり」については個別の対応になってきた。	B	専門家との連携は図れていない。		・どのくらい評価が出てるか不明 ・B組と同様に運動への抵抗感が課題だと思います	専門家等を交えずに学校としてのノウハウを構築	継続
			②日々の記録を続けることができる連絡帳「マイライフ」を活用した支援	○	○	マイライフからL-Gate(電子版)に変更	B	生徒の実態に応じて「きまり」を随時見直すことができた。			きめの細かい個別の対応を行なうながら対応していく。	継続
			③登校後の朝の時間を活用し、ソーシャルスキルトレーニング(SST)の実施	○	○	概ね出来ており、形が出来上がってきました。	A	「マイライフ」から「L-Gate」に変わり、毎日生徒とやり取りした。		・L-gateの見直しを行い継続	継続	
			④登校コースに併せて双方型オンライン授業による指導体制を構築	○	○	出席率について90%以上になっている。	A	毎日実施することができた。		・登校率が抜群に高い。指導の成果だと思います。	継続	
社会共生		(7)共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進	⑤児童の教室内環境を一掃し、生徒がより主体的に学べる教室環境の整備・充実	○	○	人数増に伴い工夫が必要になる。	A	オンライン含め90%以上の登校率である。オンラインの仕方は改善の余地がある。		・入級準備や通常学級への復帰など「移行」を意識した学習体制の確立がされ生徒への安心やストレスの軽減につながっていると感じました。	双方型のオンライン授業体制を構築せ実施	継続
	開かれた学校	(8)地域コミュニティの拠点としての取組の充実	⑥「まつり」と「花祭」を主とした地域活動への参加	○	○	本年度は特に、ほっとルームからの転級生徒は増加している。	B	生徒数が多い時はかなり手狭になっていたので、改善の余地がある。		・今後は生徒数の増加とケア体制の両立のためのハーフ面、及び生徒のコミュニケーション・セッションや主体性を確保する取組みが課題になると思います。	継続	
			⑦地域の部活動や地域活動への参加を促進する。	○	○	遠足や宿泊のバリエーションが増えてきた。	A	今年度ほっとルームから9組に転級してきた生徒の接続はよかったです。		・本校の中核をなす取組として位置付け継続。	継続	
			⑧地域の部活動や地域活動への参加を促進する。	○	○	ボランティア参加人数が多いを感じる。	A	体験活動が多く、かなり充実させることができた。		・生徒の主体性を生かしながら継続	充実	